

平成25年度第6回 函館市観光基本計画策定検討委員会 会議録

■ 開催概要

開催日時：平成26年2月18日（火） 18:00～19:00

開催場所：ロワジールホテル函館 3階 瑠璃

出席委員：木村委員，市根井委員，蝦名委員，遠藤委員，奥平委員，折谷委員，小林委員，全委員

欠席委員：和泉委員，黒川委員，國分委員，田中委員，中野委員，西村委員，藤森委員

函館市：観光コンベンション部長，観光コンベンション部次長

■ 次第

- 1 開 会
- 2 報 告
- 3 意見書手交式
- 4 閉 会

■ 討 議

（木村委員長）

平成24年10月から始まった当委員会も，今回で8回目となる。これまでに様々な議論をしてきたところであるが，それが最終案としてまとまったところである。早速，事務局から内容について報告をお願いしたい。

（事務局）

（計画（案）の内容について報告）

（木村委員長）

前回委員会で事務局から報告された観光基本計画（素案）に対する当委員会からの意見およびパブリックコメントについて，その内容が反映されていることが確認できた。また，その他の部分についても，これまでの当委員会での議論が十分に反映されていると思う。これを踏まえ，今回の計画（案）の内容について，異議はないか。

（奥平委員）

50ページに記載されているキーワードについて，「MICE」という言葉が大きく出てくるが，このページに説明が全くないので，一般市民が見ると少し唐突な印象を受けるのではないか。

(事務局)

16 ページでMICEという言葉が初めて出てくるが、ここで説明を加えている。

(蝦名委員)

MICEもそうだが、産業連関表に関する用語の説明などをまとめた索引ページを別に作成してはどうか。

(事務局)

奥平委員と蝦名委員からいただいた意見については、委員長と相談のうえ、事務局で整理させていただきたい。

(市根井委員)

MICEの読み方について、カタカナで「マイス」と振り仮名を入れてはどうか。

(事務局)

その点も含めて、事務局で整理したい。

(木村委員長)

デザインを含め、成案化にあたっては軽微な調整がまだ必要だとは思いますが、その部分については、私と事務局に一任していただきたい。

その他、異議がないようなので、委員会として、内容については妥当であるとの結論としたい。なお、本日欠席の委員からも、異議がなかったことを申し添える。

最後に各委員から一言感想などをお聞かせいただきたい。

(市根井委員)

内容もしっかりまとまっており、改めてこうして製本されたものを見ると、よくここまで作ることができたなと感激している。委員として、計画策定に少しでも携わることができ、非常に光栄に思っている。具体的な施策の一覧を見ると、人材の育成など、まだまだこれからのところもあるので、今後は実現に向けて努力していきたい。

(蝦名委員)

学生という立場でこうした委員会に参加させていただき、感謝している。函館の街を深く知る機会にもなったし、市内で観光に関する様々な事業に携わっている皆様のお考えを直接お聞きすることができたことは、非常に貴重な経験になった。

(遠藤委員)

今回の最終案は非常によくまとまっており、この観光基本計画の策定に微力ながらお手伝いできたことは、大変名誉なことだと感じている。

今までの10年間というのは、団体旅行が主流であったが、これからの10年間は、ますます個人化・多様化が進んでいく。今年、函館は開港160年になるが、その当時からある函館の魅力を全国、全世界に発信し、個人のお客様にもしっかりと対応できるような10年にしていければと思っている。

(奥平委員)

今回の計画は、現計画に比べて非常にわかりやすく、より市民にアピールできる内容になっている。当委員会でも、一体誰のための計画なのか、という議論があったが、ここから先は、市民に向けてどのようにこの内容を周知徹底していくのか、その方法を模索していくことが大事。10年後には東京オリンピックも終わっており、どのような状況になっているかはわからないが、これからも函館の観光を維持、発展させていけるよう努力していきたい。

(折谷委員)

委員の一員として、皆様と一緒にこのような立派な計画の策定に携わることができたことを、大変光栄に思っている。

まちづくりの活動を続けて10年以上になるが、今後はこの計画をバイブルにしながら、少しでも多くの観光客に来ていただき、喜んでいただけるよう、活動を続けていきたい。

計画書といっても、非常にカラフルで写真もあり、内容がわかりやすいのはもちろんのこと、見やすくまとまっていると思う。

また、この度の雪害などのことを考えると、パブリックコメントにあった、観光客の安全・安心を守る体制の整備が具体的施策に追加されたことはよかったと思う。

(小林委員)

函館生まれ、函館育ちだが、このまちについて、まだまだ知らないことがあるということに気付かされた。それを市民にどう伝えていくかが、これからの本当の課題。

今回の基本計画を見て、10年先を見据えた素晴らしい地図ができたと感じている。これから先は、函館市民の意識を高め、10年先に描く「新国際観光都市 函館」というものをしっかりと作り上げていくことが重要。一函館市民として少しでも力になれるよう、これからも頑張っていきたい。

(全委員)

皆さんと同様、当委員会の委員に任命されたことは、名誉なことだと思っている。新幹線開業を控え、函館市としても大きな舵取りが必要になってくると思う。

私は、函館以外の方にお会いするときは、自然に函館の自慢をしてしまうくらいこのまちが好きだが、本委員会の委員を経験したことで、より一層函館の良さを知ることができた。函館市民にも、ぜひそうした誇りを持ってほしい。

観光は、国際的な政治・経済問題や3年前の大地震のような自然災害など、思いも寄らない事情で、大きな打撃を受けることがあるということを、この度改めて感じた。これからも、本計画に携わった人間として、現場では、臨機応変に力を発揮していきたい。

(木村委員長)

「人・まち・文化の宝石箱 新・国際観光都市 函館へ」という基本理念については、多くの時間を費やし議論してきたが、このフレーズが決まったときに、この計画が「出来た」と感じていた。

問題を解決しようとする時には、どうしても細部の施策の部分に目が行きがちで、それを解決しない限りは全体的な方針の実現はできないわけだが、基本計画の策定という場面で、中核課題のような抽象度の高いものを、この委員の皆様のお知恵の集約として、ここに理念という形で書くことができたことは、非常にありがたく、また感動もしている。

今回、こういう形でまとめていくにあたり、事務局も非常に大変だったかと思うが、この計画は、各委員のご発言を、事務局とともにまとめ上げた、まさに「果実」だと思っている。5年後の見直しの際には、我々が議論した内容を客観的に精査する必要が出てくるが、その際はまた、皆様にご協力をいただくこともあるかと思う。

函館は観光を生業とする都市なので、10年後には、市民が「MICE」などの観光に関するワードを普通に使えるようになっていくことを願っている。

これまでの皆様のご尽力に、改めて感謝申し上げます。

■ 意見書手交式

(事務局)

委員会より、内容に関してご承認をいただいたということで、策定検討委員会から函館市への意見書の手交式を行いたい。

(木村委員長から布谷部長へ意見書を交付)

※意見書の内容は以下のとおり

平成26年2月に報告のあった函館市観光基本計画（案）について、当策定検討委員会において討議した結果、この内容は概ね妥当であるとの結論に達しましたので、ここに報告します。

なお、本計画の実現にあたっては、市民・事業者・行政の協働による取り組みが必要不可欠であることから、広く市民等への周知を徹底し、今後10年間の計画期間において、本計画が着実に推進されることを切望いたします。

（布谷部長）

各委員の皆様には、大変お忙しい中、約1年半の間、ご協力いただきましたことを心から感謝申し上げます。

この計画は、平成26年度からの10年間の計画期間であるが、この間に、北海道新幹線の開業という、函館観光にとって大きな転機を迎える。新幹線は決して魔法の杖ではなく、開業すれば全てが良くなるというものではない。この計画に盛り込んだ様々な施策を、行政だけではなく、市民、事業者と一緒に、オール函館で進めていかなければならない。20年後には、北海道新幹線が札幌まで延伸するが、その時には、函館が通過駅になってしまう可能性も十分に考えられる。この計画では、5年後に見直しをすることを想定しているが、常にこの地域をどういう地域にしていきたいか、ということを考えていかなければならない。我々行政だけでは進むことができないので、今後も各委員の皆様には、様々な形でご協力をいただければ幸いである。

■ 閉 会